

# ハザードマップ (洪水・土砂災害編)

- 災害を知る……………①
- 防災情報の入手……………②
- 避難するときの心得……………③
- わが家の防災メモ……………④
- 避難するときの心得……………⑤
- わが家の防災メモ……………⑥



避難の際には、感染症対策として、マスクの着用、3密の回避、ソーシャルディスタンスの確保をお願いします。  
【ハザードマップ(洪水・土砂災害編)に関するお問い合わせ】山元町(総務課) 電話：0223-37-1111

## ①災害を知る

### 河川水位と避難情報発表の目安

大雨により坂元川の水位が上昇し、氾濫の危険性が高くなると、河川管理者(宮城県)から河川の水位に関する情報が発表されます。

町が発令する避難情報の目安

避難指示(緊急) 避難勧告	氾濫危険水位	3.1m
避難準備・高齢者等避難開始	避難判断水位	2.9m
水防団出動	氾濫注意水位	1.6m
	水防団待機水位	1.3m

坂元川(道倉)

### 家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊等氾濫想定区域とは、家屋の倒壊や流失をもたらすような氾濫の発生が想定される範囲をいい、家屋の倒壊・流失の原因に応じて、洪水の氾濫流による区域と、洪水時の河岸侵食による区域があります。

**家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)**  
堤防の決壊等が発生した場合に、未遡家屋の倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。

**家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)**  
河岸が侵食された場合に、家屋の倒壊等の危険性がある区域の目安を示すものです。

### 土砂災害

土砂災害は大雨や地震によって突然起こります。いつ、どこで、どの程度の規模で起こるか、正確に予測することはできません。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊) 土石流 地すべり

大雨などによって地面に水分がしみ込み、地盤がゆるみ斜面が突然崩れ落ちます。

長引く雨や台風の大雨で、谷や山にある土砂が一気に流れ落ちます。

緩やかな斜面で粘土のような滑りやすい土壌に雨がひびき、地面が動きまわります。

### 土砂災害(特別)警戒区域

宮城県では、土砂災害防止法に基づき、土砂災害の被害を受けるおそれがある区域を「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」に指定しています。山元町には54箇所の指定区域があります。

(土砂流の場合)  
■ 土砂災害特別警戒区域  
■ 土砂災害警戒区域

**土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)**  
急傾斜地の崩壊や土石流等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命、または身体に著しい危害が生じおそれがあると認められる区域です。特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

**土砂災害警戒区域(イエローゾーン)**  
急傾斜地の崩壊や土石流等が発生した場合に、住民等の生命、または身体に危害が生じおそれがあると認められる区域です。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

## ④避難に備えるために

### 非常持ち出し品チェックリスト

非常時の避難に備え、普段から持ち出し品を用意してリュックサックなどに入れておくことで便利です。荷物の重さの目安は、男性15kg、女性10kg程度がよいとされます。乳幼児・子ども・高齢者など家族の状況に応じた備えをしておきましょう。また、感染症予防のため「マスク・体温計・消毒液等」事前に準備をして対策をしておきましょう。

**非常食・飲料水**  
□ 非常食 □ 飲料水 □ 粉ミルク

**貴重品**  
□ 身分証明書 □ 現金 □ 預金通帳・印鑑

**衣類**  
□ 下着 □ 下着 □ 手ぶくろ □ レインコート □ 毛布・タオル

**乳幼児の家庭** □ 手帳、離乳食、おむつ等

**高齢者の家庭** □ 流動食、入れ歯、介護用品等

**アレルギー疾患** □ アレルギー対応食品等

**道具類**  
□ 懐中電灯 □ 携帯ラジオ(防災無線) □ 電池 □ ナイフ(かん切り) □ ビニール袋 □ ロープ □ ローソク □ マッチ(ライター)

**安全、衛生、医薬用品**  
□ 救急箱 □ 体温計 □ フェイスガード □ マスク □ ハンドソープ □ ピニール手袋 □ きず薬 □ 消毒薬 □ 三角巾 □ 胃腸薬 □ 絆創膏 □ ガーゼ □ 目薬 □ 湿布薬 □ 包帯

**非常備品チェックリスト**  
□ カセットコンロ □ ビニール袋 □ カセットボンベ □ ナイフ □ ランプ・アルミホイル □ 乾電池、充電器 □ 紙皿、紙コップ、割りばし □ 新聞紙、ブルーシート □ 給水用ポリタンク □ 包帯 □ ティッシュペーパー □ ウェットティッシュ □ 不要なシャンプー □ 消毒液 □ 使い捨てカイロ □ 救急箱 □ 服用中の薬(お薬手帳)

**備蓄はローリングストックで効率的に**  
備蓄のために特別なものを買えるのではなく、日ごろから利用している日用品を使った分だけ買い足していく考え方が、賞味期限切れの問題やコスト面においても有効な方法です。

## ②防災情報と避難行動

### 警戒レベル、避難情報と避難行動

水害・土砂災害について、町が出す避難情報と、国や県が出す防災気象情報が5段階の警戒レベルに整理されました。内容を正しく理解し、それぞれのレベルに応じて適切に行動できるようにしましょう。

警戒レベル	皆さんがとるべき行動	避難情報等	防災気象情報
警戒レベル5 命の危険、直ちに安全確保	命を守るための最善の行動をとります。	緊急安全確保 <sup>①</sup> 【市町村が発令】	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 等
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	レベル4までに必ず避難 速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難指示 <sup>②</sup> 【市町村が発令】	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等避難	避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 <sup>③</sup> 【市町村が発令】	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報 等
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 【気象庁が発令】	警戒レベル2相当情報
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 【気象庁が発令】	警戒レベル1相当情報

これは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

### 雨の強さと感じ方

1時間に20mm以上の大雨が降り、降り始めからの累積雨量が100mmを超えたりした場合、災害が起こる危険性があります。雨の様子や気象情報に十分注意して、河川やがけなど危険な場所には近づかないようにしましょう。

1時間雨量が	感じ方
10~20mm	やや強い雨 ザーザーと降る
20~30mm	強い雨 どしゃ降り
30~50mm	激しい雨 バケツをひっくり返したように降る
50~80mm	非常に激しい雨 滝のようにゴーゴーと降り続く
80mm~	猛烈な雨 水しぶきであたり一面が白くなるような圧迫感や恐怖を感じる

## ③災害に備えるために

### 災害への備え

地震や津波は、いつ起きるかわかりません。また、近年は大雨などの自然災害が多発しています。災害が起きたとき、慌てず、落ち着いて行動ができるように、家族や地域でよく話し合い、日ごろから災害に備えましょう。

- 浸水想定区域を確認**  
自宅周辺で浸水が想定される範囲を確認しておきましょう。
- 避難場所や避難路を確認**  
最寄り避難場所や家族が離れ離れになったときの集合場所および安全な避難路を複数(2か所以上)確認しておきましょう。
- 安否確認の方法について確認**  
災害はいつ起きるかわかりません。家族が離れ離れになったときお互いの安否確認の方法を確認しておきましょう。
- 防災情報に注意を**  
普段から天気予報や気象情報、地震情報、津波警報・注意報などに十分注意して、万全の対策を立てましょう。
- 自宅内外の点検と整備を**  
タンクがめくれているアンテナの取り付けが適切かどうか、強度によって揺れやすくなる原因となるため注意が必要です。
- 非常持ち出し品の事前準備を**  
避難するときの荷物を必要最小限にまとめて事前に準備しておきましょう。感染症対策品も入れましょう。

### 自主防災について

わたしたちの地域を災害から守るために、まず自助(自分の命は自分で守る)、そして共助(自分たちの地域をみんなで守る)を意識して行動することが大切です。町では、地域の防災力を向上させるために自主防災組織の活動を促進しています。一人ひとりの力は小さくても、地域の人々が協力すれば大きな力になります。日ごろから自主防災組織の活動に積極的に参加することが、自分や家族そして地域を守ることに繋がります。

### 山元町総合防災訓練

町では、台風や集中豪雨に伴う土砂災害などの各種災害に備えるため、総合防災訓練を実施しています。大規模災害に対する防災体制の確立と町民の防災・減災意識を高めることを目的に、公助が機能するまでの自助・共助に主眼を置いた各種訓練を自主防災組織と防災関係機関、小中学生も含めた地域住民が一体となって行います。また、「防災散歩」など独自の研修をはじめ、防災士会や消防署、消防団、自衛隊を講師に迎えて、救急救命や初期消火の訓練など、自助・共助に関する知識や技術の習得に取り組んでいます。参加者からは「年に一度、この訓練に参加することが備えの第一歩になる」「地域での連携の大切さを改めて感じた」などの声がかげられ、災害発生時の対応を再確認する貴重な機会となっています。

後援職員の様式状況確認 住民同士の協力により迅速な避難を実現 自衛隊による応急手当講習

## ⑤防災情報の入手

### 防災情報の伝達経路

大雨や洪水、地震、津波などの災害のおそれがある場合には、防災気象情報(注意報・警報・特別警報)、災害情報(地震情報、津波情報・噴火情報等)、避難情報などの防災情報が町民の皆さんへ提供されます。

山元町 避難情報 TEL: 0223-37-1111

あぶくま消防本部 巨匠消防署 山元分署

消防団 広報車 防災行政無線 情報端末

皆さん同士の声の掛け合い

### 情報を収集するには

防災情報の入手は災害対策の第一歩です。信頼できる最新の情報を積極的に入手し、状況を正しく判断することが重要です。

**メールで入手**  
キラリ☆やまもとメール配信サービス  
町の防災情報等がメールで届くサービスです。配信を希望する方は事前登録が必要です。そのQRコードを読み取るか、下記メールアドレスに空メールを送って登録してください。  
yama.jumin@mpme.jp ←空メールを送信

**緊急速報エリアメール**  
町では、緊急性の高い災害情報や避難情報を迅速かつ確実に伝達するために、「緊急速報エリアメール(NTTドコモ)」、「緊急速報メール(au、ソフトバンク)」を導入しました。受信費用は無料ですが、事前登録等は必要ありません。詳細は携帯電話各社ホームページを確認してください。

**配信内容**  
● 気象庁が配信する緊急地震速報など  
● 町が発信する「避難勧告」「避難指示」その他緊急かつ重要な情報

**電話で入手**  
防災行政無線直直ダイヤル 37-8650  
定時放送を除く、直近の放送内容を確認できます。(通話料は電話にかけた方の負担となります) 37-8651

**テレビ・ラジオから入手**  
警報や注意報の発表状況はテレビラジオを通じて知ることができます。各局データ放送を利用して、より詳細な情報入手することも可能です。

**ハザードマップから入手**  
いざという時に活用できるよう、自宅やよく行く場所など危険な箇所はないか、また、最寄りの避難所・避難場所を確認し、危険箇所を回避する避難経路についても家族で話しあっておきましょう。

**山元町ホームページ**  
https://www.town.yamamoto.miyagi.jp/

## ⑥避難するときの心得

避難とは、難を避けること、つまり安全を確保することであり、先ずは自宅の災害/ハザードマップ等で事前に確認し、自宅居住が継続できる場合は自宅避難を検討してください。身の危険を感じたら、ためらわず早めに避難してください。誰かに頼りきりになるのではなく、自分自身の判断で速やかに行動することが重要です。

- 避難の呼びかけに注意**  
危険が迫ったとき、町や消防署、消防団から避難を呼びかけることがあります。
- ためらわない**  
身の危険を感じたら、ためらうことなく早めに行動することが大切です。
- 避難する前に**  
自宅を離れる前に、ガスや電気など火の元を点検してください。
- 感染症対策を考えた避難**  
避難所は多くの人が避難するため、3密(密閉・密集・密接)の環境になることが予想されます。避難時はマスクをし、避難所ではソーシャルディスタンスの確保を心がけるなどの対策をお願いします。
- 危険を避ける**  
切れた電線や倒壊など危険な場所には近づかないようにしましょう。
- 低い土地に注意**  
周囲より低い場所(アンダーパスなど)は、冠水・浸水のおそれがあるため危険です。
- お互いに協力して**  
お年寄りや子ども、身体の不自由な方たちが速やかに避難できるよう協力しましょう。
- 気をゆるめない**  
警報・注意報が解除されるまで気を緩めず、防災情報に注意してください。

### 要配慮者の支援

災害が発生したら、お互いに助け合いながら避難しましょう。特に、自力で避難することが困難な要配慮者の方は十分な配慮が必要です。要配慮者は、要配慮者の方たちの不安な気持ちに寄り添い、落ち着いてサポートすることを心がけましょう。

要配慮者とは…  
要配慮者とは、高齢者、外国人、妊婦、幼児、障がいのある方、ヘルプマークやヘルプカードを携行している方などをいいます。災害が起きたとき犠牲になる方多くは、ひとりで避難することが困難な要配慮者の方たちです。平日のコミュニケーションを通じてお一人おひとりを地域でしっかりと把握し、緊急時には地域で協力して支援する体制を整えておく必要があります。

ヘルプマーク・ヘルプカードについて  
義足や人工関節を使用している方、内障がいや難病の方、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方がいます。また、障がいのある方や病気を抱えている方の中には、自分から困っていることや助けしてほしいことをうまく伝えられない方もいます。ヘルプマーク・ヘルプカードは、こうした方たちが周囲の方に配慮を必要としていることを知らせて、援助を得やすくするためのものです。

ヘルプマークとヘルプカード

## ⑦わが家の防災メモ

### 「避難に必要なか?」

ハザードマップで確認し、自分の避難計画をしよう!

自宅およびその周辺を確認  
□ 洪水浸水想定区域がある  
□ 土砂災害のおそれがある

浸水が最深の床高を上回るおそれがある  
1階: 0.5m以上 / 2階: 3m以上

□ 屋内安全確保(重点避難) 自宅の上階に避難  
□ 立ち寄り避難(水平避難) 指定避難所など安全な場所に避難

### わが家の避難行動計画

一次集合場所	指定避難所・指定緊急避難場所
①	①
②	②

### 家族の情報

名前	生年月日	血液型	連絡先その他
名前	生年月日	血液型	連絡先その他
名前	生年月日	血液型	連絡先その他
名前	生年月日	血液型	連絡先その他
名前	生年月日	血液型	連絡先その他

### 災害用伝言ダイヤル171

大規模な災害が発生した際に、被災地の方が録音した安否情報をその他の地域の親戚や友人などが「災害用伝言ダイヤル171」を通じて再生することができます。伝言の録音・再生は被災地の方々の自宅の電話、公共電話、携帯電話を利用することができます。なお、利用にあたっての事前の契約などは不要です。詳細は携帯電話各社ホームページで確認してください。

**伝言の録音方法**  
REC 録音 171 にダイヤル (暗証番号なし) 1 をダイヤル (暗証番号あり) 3 をダイヤル【4桁入力】\*1 伝言を録音 (電話番号\*2 (市外局番から))

**伝言の再生方法**  
PLAY 再生 171 にダイヤル (暗証番号なし) 2 をダイヤル (暗証番号あり) 4 をダイヤル【4桁入力】\*1 伝言を再生 (電話番号\*2 (市外局番から))

被災地の方 自宅の電話番号または連絡を取りたい被災地の方の電話番号  
被災地以外の方 連絡を取りたい被災地の方の電話番号

災害用伝言板(web171)との連携  
災害用伝言ダイヤル171と災害用伝言板(web171)との連携により、それぞれで登録された伝言内容を相互に確認可能です。

インターネットでのお手続きはこちらから Web171 https://www.web171.jp